鳥類　＜カイツブリ目　カイツブリ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠB類（越冬）　（国：リスト外）
AVES　＜PODICIPEDIFORMES　PODICIPEDIDAE＞　　AICHI：EN（Win）　（JAPAN：－）

アカエリカイツブリ　*Podiceps grisegena* (Boddaert)

【選定理由】

越冬や渡りの季節に、主に三河湾や太平洋沿岸で少数が観察される。以前は渥美半島三河湾側の田原市馬草を中心とする海域で毎年 2～5 羽程度が比較的安定して越冬していたが、近年は毎年安定して飛来する場所がなくなっている。また 1980 年代までの記録では、名古屋港周辺や衣浦湾周辺、木曽川や豊川、知多半島や渥美半島および内陸の丘陵地にある用水池などでも観察されているが、近年は渥美半島沿岸の海上以外ではかなり希になっている。

【形　態】

全長 47cm、翼開長 80cm。夏羽は、頭上が黒く頬から喉にかけては灰褐色、頸は赤褐色でよく目立つ。冬羽は、全体的に灰褐色で、頸から脇にかけて汚白色になる。夏羽・冬羽ともに嘴の基部が黄色く、次列風切は白い。

冬羽は、距離が遠い場合、ミミカイツブリ等と混同する可能性があるが、頭部から嘴にかけての輪郭が直線的であること、嘴の形状と色により識別することができる。

愛知県田原市, 1987 年 4 月 19 日, 山本 晃 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

現在の愛知県では、主に渥美半島沿岸の三河湾および太平洋で観察されている。

【国内の分布】

北海道の湖沼で繁殖し、主に九州以北の沿岸部の海上で越冬し、河川や湖沼等に入ることもある。

【世界の分布】

ヨーロッパ、西シベリア、シベリア東部、北アメリカ北部で繁殖し、ヨーロッパ、東アジア、北アメリカなどの沿岸部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

過去に比較的安定して生息していた田原市の馬草海岸を例示すると、冬期でも比較的穏やかな内湾の環境である。当時はハジロカイツブリやカモ類の小群とともに、少数羽が生息していた。水面に浮かんでおり時に採餌のために潜るが、頸が太く体がやや沈んだシルエットは独特で、カモ類や他のカイツブリ類との見分けは肉眼でも容易であった。

【現在の生息状況／減少の要因】

過去に県内で安定した越冬記録があるのは、主に渥美半島の北部にあたる三河湾沿岸部で、1970 年代には 95 羽の群れの記録がある。1980 年代までの記録の中には名古屋港の西三区で 50～60 羽が越冬していたとの報告もあるが、この地域で毎年継続して観察されていたかどうかは不明である。その後も渥美半島の北部沿岸では観察記録は多くあり、1997 年 1 月に 14 羽、2019 年 2 月に 15 羽という記録もあるが、特定の場所で安定して越冬していたのは 1980 年代までである。渥美半島の南部沿岸でも毎年のように少数の観察記録はあるが、特定の場所での継続した記録は確認されていない。近年渥美半島の沿岸以外では、姿を見ることも希になっている。

【保全上の留意点】

本種は小型の魚類や水生無脊椎動物を捕食するため、特に内湾では生物の生息環境を回復する努力が必要である。

【特記事項】

近年渥美半島北側の三河湾中央部は慢性的な貧酸素状態であり、餌となる魚介類が激減している。

【関連文献】

真木広造･大西敏一･五百澤日丸, 2014. 決定版 日本の野鳥 650, p.87. 平凡社, 東京.

（高橋伸夫）